

アンケート調査及び基本情報の把握結果の概要について

京田辺市民の環境に対する意識を把握することを目的として実施したアンケート調査、及び本市の地域特性を明らかにするため各種統計資料等を把握した結果の概要について、以下に示します。

1. アンケート調査結果の概要（詳細な結果については参考資料 No.1 を参照）

1-1 調査概要

- 調査実施期間 平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日
- 調査対象 【市 民】無作為抽出した市民 2,000 名
【事業者】無作為抽出した事業所 200 社
- 調査方法 郵送によるアンケート用紙の配付・回収
- 回収結果 H15 の調査より、回収率が低下している。

対 象	配 布 数		回 収 数		回 収 率	
	H26	H15	H26	H15	H26	H15
市 民	2,000	1,540	757	917	37.9%	59.5%
事業者	200	100	46	50	23.0%	50.0%

1-2 調査結果概要

■ 市民アンケート

○ 居住地周辺の環境について

- ・地域環境の現在の状況について、満足との回答が H15 の調査時より増えている。
- ・地域環境の変化について、H26 において、「どちらかといえば悪くなった」「悪くなった」と回答した割合は、多い順に「静けさ」「自然のうつくしさ」「景色の良さ」となっている。
- ・生活環境の変化について、特に「田畑」「自然の緑」「野生の動物・鳥」が、この 10 年間で少なくなっていると感じられている。一方で、「どちらかといえば多くなった」「多くなった」と回答した割合は、多い順に「住宅」「自動車の交通量」「人の往来」となっている。

○ 身近な動植物について

- ・「タヌキ」「キツネ」「ワシ・タカ」「クワガタムシ」「ホタル」「メダカ」等、身近な生き物が見られなくなっている。

○ 環境に関する取組について

- ・重要だと考える環境問題について、「景観問題」「エネルギー問題」との回答が H15 の調査時より増えている。
- ・京田辺市の理想像として、「安心して暮らせるまち」「自然が豊かなまち」「田園環境の美しいまち」への指向が強い。
- ・市に対し、「市の率先した環境保全活動」「市民に向けた環境情報の提供」「条例に

よる規制強化」に対する取組が期待されている。

- ・事業者に対し、「事業者の率先した環境保全活動」に対する取組が期待されている一方、「市民と事業者が協働した活動」に対する取組について、H15の調査時より期待が大きくなっている。
- ・「買い物袋の持参」「電気の節約」「再生品・詰め替え品の利用」を日常的に実施しているとの回答がH15の調査時より増えている。

■ 事業者アンケート

○ 環境に対する考え方について

- ・企業による環境への取組について、「社会貢献の一つ」であると考えられている。
- ・企業が社会的信用を得るため、「顧客重視」に力を入れるべきと考えられている。また、「ボランティア活動への支援」に力を入れるべきとの回答がH15の調査より増えている。
- ・「事業者と市民が協働した活動」に対する取組について、市民から求められていると考えられている。

○ 環境に関する取組の実施状況について

- ・「省エネ型機器への切り替え」「低公害車の導入」「雨水等の利用」「事業所及び周辺の緑化」の取組について、H15の調査より取組が進んでいる。
- ・市に対し、「環境保全を目的とした事業活動へのサポート」「太陽光発電などの再生可能エネルギーシステム設置の支援」「市の率先した環境保全活動」に対する取組が期待されている。

○ 事業活動と環境の関係について

- ・環境保全のため、「ごみの分別やリサイクルなど事業活動の中で手間をかける」「空調の利用や自動車の利用を控えるなど快適さや便利さをがまんする」「環境意識を向上させるため従業員に環境教育を行う」ことができると考えられている。

2. 基本情報の把握結果の概要（詳細な結果については[参考資料 No.2](#)を参照）

■ 本市の概況（気候・人口・土地利用・産業・空き家）

- ・H25の年平均気温は15.6℃、年間降水量は1,686mmとなっている。降水量は近年、増加傾向が見られ、短時間集中豪雨の発生が増えている。
- ・人口は増加傾向にある。
- ・市内全地域において、老年人口（65歳以上）が増加しており、高齢化が進んでいる。
- ・一方で三山木地域においては、生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（0～14歳）が大きく増加している。
- ・H25の土地利用状況は山林が21.2%、田が17.5%、宅地が17.4%となっており、都市化の進展に伴い宅地が増加する一方、田は減少傾向にある。
- ・産業別就業者数は第1次産業が減少しており、第3次産業が増加している。
- ・H20の空き家率は6.8%となっているが、全国及び京都府（13.1%）と比較すると低い率となっている。

■ 自然環境の現況（農地・植生・林野）

- ・経営耕地面積が減少している中、耕作放棄面積が増加している。なお耕作放棄面積が最も多い地域は普賢寺地域である。
- ・主な植生として、コナラ群落やアカマツ群落、竹林が広く分布している。
- ・林野面積全体の8割以上を私有林が占めている。

■ 生活環境の現況（大気質・苦情）

- ・大気汚染について、注意報レベルの濃度の光化学オキシダントの発生が、H18以降に見られるようになってきている。
- ・H25の苦情発生件数は138件であり、件数は年々減少傾向にある。なお最も多い苦情は不法投棄についてとなっている。

■ 社会環境の現況（交通・下水道・廃棄物・エネルギー）

- ・京阪バスの乗降客数について、H22以降、増加傾向に転じている。
- ・公共下水道普及率は年々計画的に増加しており、H25時点で97.9%となっている。
- ・ごみ排出量は年々減少してきており、市民一人当たりごみ排出量についてもH25には580gとなり、減少傾向となっている。
- ・H25のリサイクル率は16.0%と低い状況となっている。
- ・電力使用量について、年度による変動が見られるが、概ね増加傾向となっている。

■ 地域環境の現況（地域資源）

- ・本市には、多くの自然資源、歴史資源、特色ある風景等がある。

■ 地球環境の現況（地球温暖化）

- ・温室効果ガス総排出量は、H19以降、減少傾向となっている。なお部門別に見ると、運輸部門からの排出量が最も多くなっている。

3. 課題の整理

前回委員会での意見、及びアンケート調査結果、基本情報の把握結果等より、本市の環境に関する課題を以下に示す。

分野	課題
全体	・高齢化が進行 ・都市化が進展
自然環境	・身近な動植物の減少 ・農地の減少 ・耕作放棄地の増加 ・外来生物の増加 ・ナラ枯れの進行 ・放置里山(竹林)の拡大
生活環境	・不法投棄
社会環境	・交通量の増加 ・リサイクル率が低い ・電力使用量が増加
地域環境	・自然の緑の減少 ・景観の悪化
地球環境	・地球温暖化の進行
その他	・市と市民及び事業者等の連携不足